

## 京築地域

### ●行橋市

京築地域の中心地として、また、近年自動車産業を中心に全国でも有数の工業集積地となった九州北東部地域の中央に位置する拠点として、広域的な役割・位置づけが高まっている都市である。北九州・大分・筑豊・福岡を結ぶ交通の結節機能も担っている。

### ●苅田町

東は周防灘に面して、国際貿易港・苅田港と広大な臨海工業地帯が広がっており、日産自動車九州(株)を中心とした自動車産業が立地している。北九州空港、苅田港、東九州自動車道苅田北九州空港インターと併せ、陸・海・空の交通結節拠点となっている。

### ●みやこ町

平成18年に、京都郡の勝山町・犀川町・豊津町の三町が合併して誕生した。英彦山を源流とする清冽な水と山々に囲まれ、オリジナルの農産物が育てられるなど、農業が盛んな歴史、文化、自然に富んだ土地柄である。

### ●豊前市

福岡県の東南端に位置し、南に修験道で知られる国指定史跡「求菩提山」、天然記念物「ツクシシャクナゲ」の群生する犬ヶ岳をひかえ、北東は海の幸豊富な「周防灘」に面する自然豊かな都市である。

### ●吉富町

福岡県と大分県の県境に位置し、面積5.68km<sup>2</sup>(H22年国勢調査)と、九州の自治体の中で最も小さい町である。町の東西を流れる山国川と佐井川の豊かな流れに育まれた自然、歴史、文化が息づいている。

### ●上毛町

福岡県の最東端に位置する町で、西は豊前市、北は吉富町、東は山国川を境に大分県中津市と隣接している。東西を山国川と佐井川に挟まれ、南部の山間部を除いて起伏は少なく、町の北部に平野が広がるなだらかな田園地帯である。

### ●築上町

福岡県の東部に位置し、行橋市、みやこ町、豊前市にかこまれ、東を周防灘に面する自然豊かな町である。町の北部には、航空自衛隊築城基地が所在している。国指定天然記念物「本庄の大楠」や国登録文化財「旧蔵内邸」、宇都宮氏の居城「城井ノ上城址」などの名勝・旧跡がある。



## (2) 圏域の取り組み

### ア. 北九州都市圏広域行政推進協議会

昭和53年3月に、北九州市、中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町の2市4町により、「北九州都市圏広域行政推進協議会」が設立された。以来、地域特性に応じた調和の取れた魅力ある都市生活の確保、適切な機能分担による都市圏の均衡ある発展と秩序ある整備を目指して、都市圏づくりを推進してきた。

国が定めていた「広域行政圏計画策定要綱」が平成21年3月に廃止された以降も2市4町の自主的な協議により、自治体間交流、情報交換、連携事業など様々な活動を協議会として行っている。

現在は、『第4次北九州都市圏広域行政計画』を更新し、各種事業を推進している。主な事業としては、「圏域共同PR事業」「子ども文化パスポート事業」「北九州都市圏情報コーナーでのPR」「職員の行政視察」「赤ちゃんの駅登録事業」などである。

事務局は北九州市。



【圏域共同PR事業】

イベントでPRコーナーを設置しての地元特産品の販売



【赤ちゃんの駅登録事業】

共同ステッカー



【子ども文化パスポート事業】

### イ. 福岡県北東部地方拠点都市地域整備推進協議会

平成4年に、地方の自立的成長の促進と国土の均衡ある発展に資することを目的とする「地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律（地方拠点法）」が制定され、平成7年3月に福岡県北東部地域の北九州市、直方市、行橋市等の22市町（現在は17市町）の地域が、一体となって魅力ある高次都市機能を兼ね備えた質の高い複合都市圏の形成を目指し、指定された。

現在の主な事業としては、「国（国土交通省）や福



【広域情報マップ 「きりんの歩き方」】

岡県に対する要望活動」「圏域職員の政策研修」「新任課長・新任係長研修」「公立図書館等の広域利用」「広域情報マップの作成・配布」「圏域共同PR事業」「職員向け圏域を巡る検討会」などである。事務局は北九州市。



【政策研修 発表風景】



北東部地域マスコットキャラクター

「ほくとくん」

#### ウ. その他 ～北九州市のインフラの広域協力～

##### ◆水道事業（分水、事業統合、緊急時用連絡管、技術協力など）

芦屋町、苅田町、水巻町、岡垣町、香春町、宗像地区事務組合（宗像市、福津市）、新宮町、古賀市、田川地区水道事業団（田川市、福知町、糸田町、川崎町）、宮若市、下関市、福岡都市圏、

##### ◆下水道事業（広域処理）

中間市

##### ◆環境事業（一般廃棄物の広域処理）

直方市、行橋市・みやこ町清掃施設組合（行橋市、みやこ町）、遠賀・中間地域広域行政事務組合（中間市、水巻町、芦屋町、遠賀町、岡垣町）

#### エ. 九州周防灘地域定住自立圏（参考）

今回のモデル事業に関する連携市町のうち「豊前市」「築上町」「上毛町」の3市町は、大分県の「中津市」「宇佐市」「豊後高田市」と平成22年度より、『九州周防灘地域定住自立圏』を構成している。

圏域の発展のため、①安全安心で健康的な生活環境 ②雇用環境 ③観光の振興 ④圏域を繋ぐネットワークの整備の4つの要素に対応する施策を総合的に行っている。

圏域の将来像を『暮らしの元気があふれる地方圏域』として、圏域全体の一体的な発展を目指し、県境を越えて連携している。



## 2 新たな広域連携事業の取組状況

### (1) 地方中枢拠点都市圏における広域連携

北九州市は、総務省から委託された「平成26年度 新たな広域連携モデル構築事業」について「北九州市・都市圏域」として、平成26年10月1日～平成27年2月27日の間、12の事業について圏域市町と連携して取り組んだ。個別事業についての取組内容、事業の成果、課題等は以下のとおりである。

### I 圏域全体の経済成長のけん引

#### ■官民連携による北九州地域の経済発展に向けた検討・実施

##### 【実施体制】

- ・北九州市総務企画局政策調整課、近隣16市町の企画部門。

##### 【取組内容】

- ・新たな広域連携の取組推進のため、平成27年度早期の「(仮称)北九州地域連携会議」の設置を検討している。そのため、近隣市町の職員の認識を深め、自治体内部での議論を喚起するとともに、地方議会、商工会議所など関係者との調整を視野に、今年度は企画部門の関係課長の会議を行うとともに、圏域自治体職員向けのセミナーを開催したもの。

##### a) 企画部門の関係課長会議

(5月) 今回の広域連携モデル事業への応募についての説明

(1月) 圏域の地方中枢拠点都市圏の取り組みについての提案

※この会議体は、不定期ではあるが継続開催を行っていく予定。

##### b) 自治体職員向けセミナー

広域連携を専門とする北九州市立大学の准教授を招聘して、2月3日に「地域特性を活かした福岡県北東部地域連携」をテーマに開催した。北九州市をはじめ、17の近隣市町の課長級など約40名の参加があった。



南博・北九州市立大学 准教授

##### 【事業の効果、課題等】

- ・セミナー終了後のアンケートによれば、広域連携の必要性、重要性については一定の理解が得られたと思われ、「地方創生に関する国の動向など、理解することができた」「近隣市町との連携に関する住民アンケートなど非常に興味深かった」等、約9割が“とても良かった”“どちらかと言えば良かった”と答えている。

- ・一方、「目指す方向はよく理解できたが、そこへ至る手法、取組みを慎重にしなければならぬと思う」「首長、市町村議会の議員などの理解を深めていかなければならぬ」等、連携協約の締結に向けての住民の理解を得るためのアプローチ、議会への説明など関係者との調整が課題であると感じている声や、既存の連携を踏み出し、さらなる連携協約を締結することのメリットの明確化の要望などの意見も多かった。



セミナーの様子

## ■圏域における産業クラスターの形成及びイノベーション実現に向けた事業の展開

### ①「パーツネット北九州」の発展・成長に向けた事業展開

#### a) 『企業立地セミナーin 大阪』の開催

##### 【実施体制】

- ・北九州市、パーツネット北九州（北九州市及び周辺地域の企業94社で構成）及び日産自動車株、トヨタ自動車九州株他の協力

##### 【取組内容】

- ・北九州市及び周辺地域の自動車関連産業の集積を図るため、地域の投資環境をPRする場として、北九州市長も出席し開催した。



北橋健治・北九州市長



セミナーの様子

- ・北部九州ではハイブリッド自動車や超低燃費軽自動車の生産が進んでおり、今後、電子電装部品産業や素材産業の集積が期待されていることから、これらの産業が集積している大阪にて開催し、市場の拡大を狙ったもの。来場者は160名（交流会94名）であった。

##### 【関係団体との連携・調整状況】

- ・「パーツネット北九州」の活動を呼び水としながら、産業集積を図っている。